

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2010年11月下旬から12月下旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1)道東海域

(1)来遊量: 来遊量少なく、終漁となる。

(2)漁場: 漁場は形成されない。

2)三陸海域

(1)来遊量: 来遊量は徐々に減少し、11月下旬は低位水準で推移する。12月上旬には断続的となり、終漁となる。


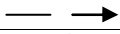


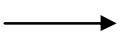
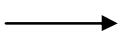
(2)漁場: 11月下旬～12月上旬は、南部に漁場が形成される。

3)常磐海域

(1)来遊量: 11月下旬は、来遊量は徐々に増加するものの低位水準である。12月上旬には減少を始め、12月上旬～下旬は低位水準となる。

(2)漁場: 11月下旬は、常磐北部において漁場が形成される。12月上旬に漁場が南部まで広がる。12月中旬に北部の漁場が消滅し、漁場は南部のみとなる。

2. 予測の概要

海 域		11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量				
	動向				
	漁 場				
三陸海域	来遊量				
	動向	低位減少	断続的		
	漁 場	南部	南部		
常磐海域	来遊量				
	動向	低位増加	低位減少	低位水準	低位水準
	漁 場	北部	北部～南部	南部	南部

3. 漁況の経過概要

(11月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月下旬をやや上回ったが、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半に来遊量はやや増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、釧路沖、襟裳岬沖であった。

釧路南南東～襟裳岬東北東沖の30～35海里付近(表面水温11～14℃)。小型船が20隻程度操業。10～24トン漁獲。

襟裳岬南東30海里～南南東80海里付近(表面水温11～14℃)。3日夜と8日夜に大型船が数隻操業。5～30トン漁獲。

また、道東海域よりも沖側で、三陸海域よりはるか東沖の、落石東南東～南南東180～210海里付近(表面水温9～12℃)では、4～7日夜に、大型船が数隻～40隻程度操業。10～120トン漁獲。

(3) 魚体

釧路沖は25cmモードの中型魚と22cmモードの小型魚主体。襟裳岬沖は、29cmモードの大型魚主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月下旬を下回り、低位水準となった。来遊量は、前年よりもやや少なかった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期前半に多かったものの、徐々に減少した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古～気仙沼沖であった。

宮古東～気仙沼東沖の30～80海里付近(表面水温13～17℃)。連日、大型船が数隻～50隻程度と、小型船が多数操業。大型船で数トン～70トン漁獲。

(3) 魚体

29～30cmモードの大型魚主体。大型魚は体重130～140g台が多い。